

立命館大学アート・リサーチセンター所蔵・公開にみる江戸期の刊行京都図 ——日本関係地図ポータルデータベース

矢野桂司 (立命館大学文学部地理学専攻 教授)

E-mail yano@lt.ritsumei.ac.jp

要旨

本報告は、立命館大学アート・リサーチセンター (ARC) が所蔵・公開する古地図の中から、江戸期の刊行京都図 10 点のうちのいくつかを紹介するものである。これらは、林吉永、菊屋長兵衛、田中吉兵衛、竹原好兵衛らの刊行による代表的な京都図であり、都市構造や名所の描写に特徴をもつ。ARC では古地図のデジタル化・ジオリファレンスを行い、日本関係地図ポータルや GIS と連携させ、人文空間学の発展を目指している。

Abstract

This report introduces several of the ten published maps of Kyoto from the Edo period held and made publicly available by the Art Research Center (ARC) at Ritsumeikan University. These are representative maps of Kyoto published by figures such as Hayashi Yoshinaga, Kikuya Chōbee, Tanaka Kichibee, and Takehara Kōhei, and are notable for their depictions of urban structure and famous sites. The ARC has digitized and georeferenced these historical maps, linking them with the Japanese Map Portal and GIS, with the aim of advancing spatial humanities.

1. はじめに

本報告は、立命館大学アート・リサーチ (ARC) が所蔵する古地図コレクションを概観する。ARC では、浮世絵、古典籍、古写真、絵葉書、フィルムなどの多様な文化資源をデジタル化し、メタデータを付して、ARC の Web ページからデータベースとして公開している。これらのデジタル化の対象は、ARC が所蔵するもの、ARC と連携している博物館、美術館、図書館などが所蔵するものである。

2025 年 6 月現在、日本に関連する古地図は 5,522 点一般公開されている¹⁾。このうち、立命館大学アート・リサーチセンター (ARC) が所蔵する古地図は 52 点である。残る地図は、ARC と連携する国内外の機関——例えば、学内の文学部地理学教室、カリフォルニア大学バークレー校 C.V. スター東アジア図書館、大英図書館、セインズベリー日本文化研究所、国際日本文化研究センター、京都歴史資料館など——が所蔵しているものである。これらの古地図のデジタル化は、ARC 自身が行ったものもあれば、各所蔵機関によって実施されたものもある。データベース上では、こうした多様な出所のデータが統合されており、横断的な検索が可能なシステムとなっている。

ここでは ARC が所蔵する日本関係古地図 52 件を中心に紹介していく。これらの古地図は、2002 年から ARC で展開する文部科学省 21 世紀 COE プログラム「京都アートエンタテインメント創成研究」において、京都の古地図の活用が期待されたことから収集されたものである。

ARC が所蔵する古地図は、描かれた範囲から大きく日本図、都市図 (京都)、世界図、その他に大別される。また、出版元では、日本、海外に分けることができる。さらに、出版年は、不明のものも含まれるが、17 世紀末から大正期までであり、ここには別途収集した、京都市明細図、過去の京都市都市計画基本図、旧版地形図などは含まれない²⁾。

以下では、バーチャル京都プロジェクトでも取り上げた³⁾、ARC 所蔵の日本関係古地図の中から近世期の京都を描いた刊行都市図・京都図を中心にいくつか紹介していくことにする。

2. ARC 所蔵の刊行都市図・京都図

2-1. 京都図について

江戸期の刊行都市図のうち、京都図に関して矢守 (1976)⁴⁾は、描かれている内容や出版元などを勘案して、以下の 5 つの時代区分を行っている。

第①期:寛永 18 年(1641 年)以前

「平安城町並図」

第②期:承応 3 年(1654 年)以下の約 30 年間

「新板平安城東西南北町並洛外之図」

第③期:貞享 3 年(1686 年)以下の約 80 年間

「新撰増補京大絵図」

出版元:林吉永

第④期:その後の約 60 年間

「名所手引/京図鑑綱目」「文化改新增細見
京絵図」などの観光案内図

第⑤期:天保 2 年(1831 年)以下の 37 年間

「改正京町絵図細見大成」

出版元:竹原好兵衛

ARC には、現在、第③～⑤期のものが 10 点所蔵されている(表 1)。

表 1 ARC 所蔵の近代刊行の京都図

番号	成立年	地図名	出版元	大きさ (cm)	資料番号
1	1696 元禄9	新撰増補京大絵図	林 吉永	121.8×161.8	arcSP01-0123
2	1741 寛保元	増補再板京大絵図	林 吉永	93×126	arcBK02-0123
3	1754 宝暦4	名所手引/京図鑑綱目	菊屋 長兵衛	60.5×93.1	arcSP01-0110-1
4	1813 文化10	文化改正/新增細見京絵図	田中 吉兵衛	65.5×93.1	arcBK03-0117
5	1824 文政7	文政七甲申年改板京都絵図	菊屋 長兵衛	29.9×43.5	arcSP02-0128
6	1833 天保4	天保四年癸巳春改正新板京都絵図	竹原 好兵衛	73×102	arcSP02-0130
7	1833 天保4	天保四年癸巳春改正新板京都絵図	竹原 好兵衛	73×102	arcSP02-0133
8	1863 文久3	新增細見京絵図大全	竹原 好兵衛	71.3×102.2	arcBK02-0124
9	1863 文久3	文久改正/新選京絵図	竹原 好兵衛	46.9×65.7	arcBK03-0118
10	1864 元治元	元治新撰/京都細見図	西四辻殿蔵版	52×75	arcBK03-0115

第③期～第⑤期に該当する 3 つの京都図を簡単に紹介する。

2-2. 第③期の京都図

江戸中期の元禄期に出版された第③期の京都図は、寺町二条上ル町に所在地があった林吉永(林氏吉永)によるものが2点ある。

「新撰増補京大絵図」(1696(天保 9)年)は、121.8cm×161.8cm の大型図で、彩色が施されている(図 1)。黒で線上に描かれた御土居の内側の洛中を中心に、町割・街路網の詳細が記述され、町名、小路名、大路名、寺社、橋、河川などが非常に精緻に描かれており、当時の都市構造を忠実に反映しているといえる。屋敷地の武家や公家、寺院、町家の敷地に所有者名が記され、社会的構造も読み取れる。

洛外については、鳥瞰図的な表現を用いながらも、写実性と地理的な正確さが重視されており、高い完成度を備えている。

もう 1 つの「増補再板京大絵図 乾坤」(1741(寛保 1)年)は、三条通を境に南北に 2 分されたもので、ARC が所蔵するのは北側の乾之図のみである(図 2)。

林吉永の京都図を時代とともに 3 つのタイプに分けて、それらの内容を詳述している山近(2007)⁵⁾によると、時代とともに主に市街地周辺部の描写内容がより詳細になる点と、2 枚に分割することによって、南北方向が縮められた縮尺が改善され、市街地の形状がやや異

なった点が見られるという。また、観光が増えてきたことから、後半の京大絵図には、18 世紀前半の京都案内記『京羽二重』に出てくる名所が多く描かれるようになったといわれている。



図1 「新撰増補京大絵図」

資料番号:arcSP01-0123

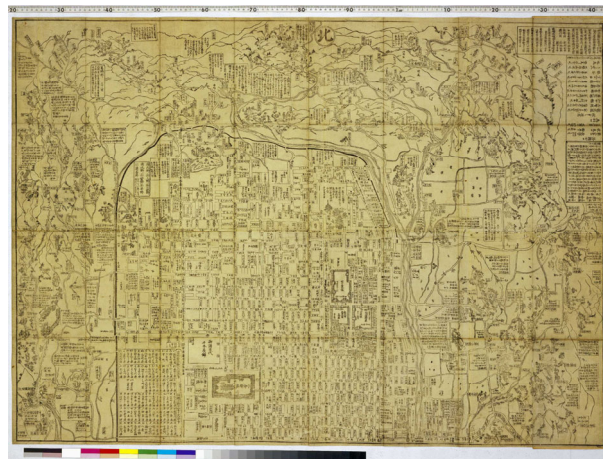


図2 「増補再板京大絵図」

資料番号:arcBK02-0123

2-3. 第④期の京都図

第④期の京都図は、林吉永の形を引き継ぐかたちで作成されたもので、京都の名所を案内する文言が含まれている。中絵図・小絵図で観光案内図の条件に合うものとされる(矢守、1976)⁶⁾。

ARC では、その代表的な版元である、菊屋長兵衛の「名所手引/京図鑑綱目」(1754(宝暦 4)年)(図 3)と田中吉兵衛の「文化改正/新增細見京絵図」(1754(宝

暦4年)などがある(図4)。

前者は、彩色はない京都図と、裏面に寺社などの名所が記された「名所手引案内」から構成されている。地図中には御土居をはじめ、寺社、屋敷名、通り名などが記され、地図の二条城の西の部分に「三条大橋より道のり附」として、三条大橋から各名所までの距離が記されている。

そして、後者は、前者と同様に京都の名所を記したもので、鮮やかに彩色されている。社寺は黄、通りは朱で、御土居は鎖線、山は緑で色付けされている。この期以降、京都の名所を描いたこのような観光案内図が多く出版されたようである。

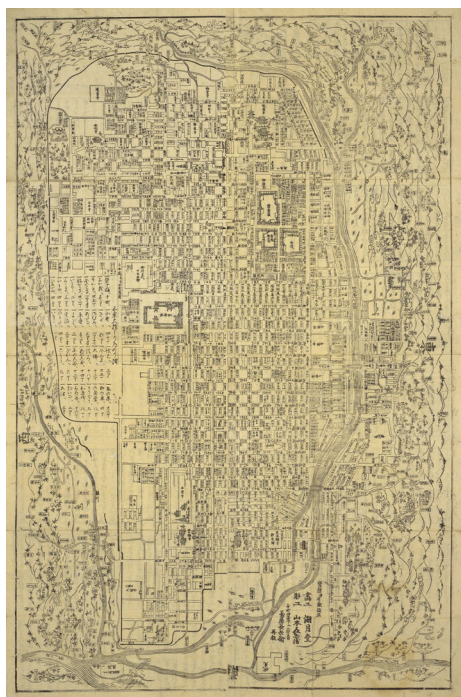


図3 「名所手引/京図鑑綱目」の絵図のみ
資料番号:arcSP01-0110-1



図4 「文化改正/新增細見京絵図」

資料番号:arcBK03-0117

2-4. 第⑤期の京都図

ARC には、第⑤期の京都図は、三条通寺町西入北側の書肆竹原好兵衛によるもの3点と西四辻殿蔵版のものが1点ある。

『天保四年癸巳春改正新板京都絵図』(図5)は、1833年に竹原好兵衛によって刊行された、単色の京都市街の改訂地図である。町割や社寺の配置、交通路網などが精密に描かれており、天保期の京都を視覚的に理解するための資料といえる。

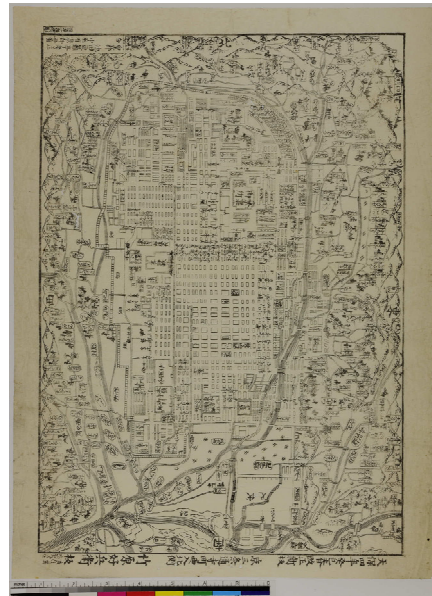


図5 「天保四年癸巳春改正新板京都絵図」

資料番号:arcSP02-0130

「文久改正/新選京絵図」は(図6)、同じく竹原好兵衛の多色刷りで、1831年の大型・多色刷りの「改正京町絵図細見大成」以降に出版された中図で、社寺は朱、地名を黄色で示されている。

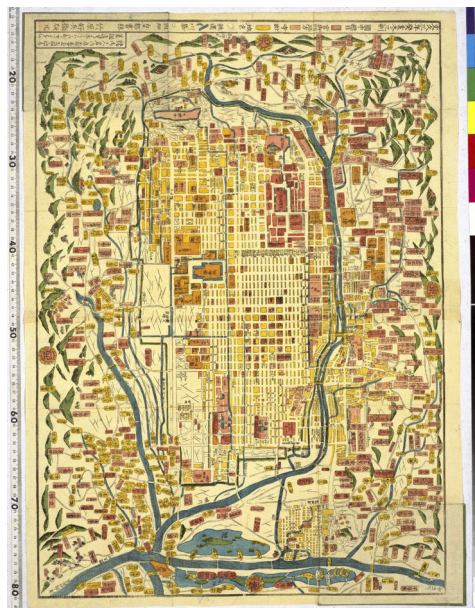


図6 「文久改正/新選京絵図」

資料番号 arcBK03-0118:

最後に、「元治新撰/皇都細見図」は(図7)、基本的に、他の京都図と同様の構図であるが、幕末の彩色図で大内裏の中が詳細に色分けされている。

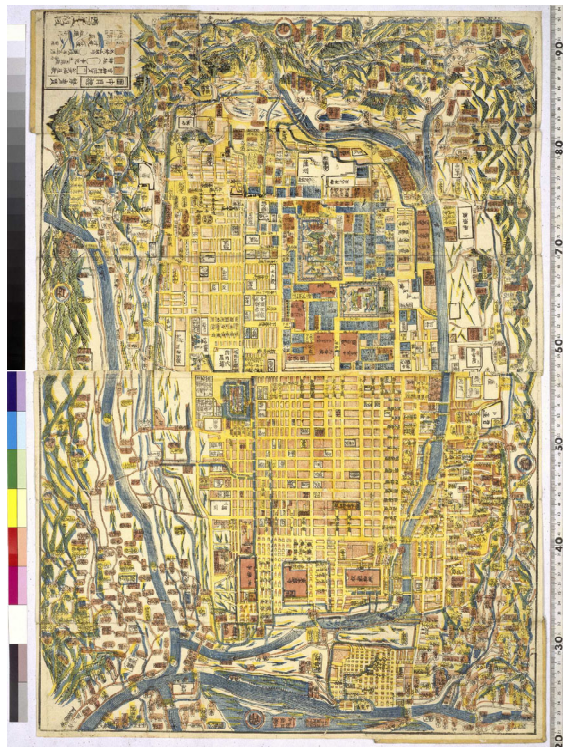


図7 「元治新撰/皇都細見図」

資料番号:arcBK03-0115

3. 古地図の活用について

古地図のデジタル化は、基本的に、浮世絵や古典籍などと同様に、2次元の紙に描かれたものをスキャンすることで行われる。しかし、古地図の場合はサイズが大きいものが多いため、大型のフラット・スキャナを用いる場合もあるが、多くはカメラによる写真撮影である。さらに分割撮影するのがことも多く、撮影後、分割された画像をPhotoshopなどの画像処理によって1ファイルに統合する場合もある。

また、大判の地図を拡大表示するために、ARCでは、浮世絵、空中写真、絵葉書、古典籍などと同様にWindowsブラウザでの拡大表示を基本とするが、古地図に関しては、現在では、IIIFによる表示を可能としている。

古地図に関しては、他の資料と異なった、地図がもつ固有の特徴がある。それは、現在の測量された地図との重ね合わせが可能である点である。紙地図同士を手作業で重ね合わせることは難しいが、デジタル化された地図の場合は、GISの基本的な機能の1つである、ジオリファレンスを行うことで⁷⁾、様々なGISソフト(ArcGIS Online, ArcGIS Pro など)に取り込んで、他の地

図との重ね合わせを可能とする⁸⁾。

さらに、ARCが提供する日本関係地図ポータルデータベースを通して、ARC所蔵の日本の古地図と、国内外他機関が所蔵する古地図を容易に比較することが可能である。

4. おわりに

本報告では、ARCが公開している日本関係地図ポータルデータベースの中で、ARCが現物を所蔵する江戸期の刊行都市図のうち京都図10点を取り上げ、そのうちの代表的なものを紹介した。

今後は、国内外の他機関所蔵の日本の古地図を、ARC日本関係地図ポータルデータベースに取り込み、日本版MapWarperやArcGIS Onlineなどと連携することで、人文空間学のさらなる発展に寄与していきたい。

[注]

- 1) 日本関係地図ポータルデータベース
https://www.dhjac.net/db/maps/search_portals.php。
- 2) これらの地図は近代京都オーバーレイマップ(<https://www.arc.ritsumei.ac.jp/archive01/heater/html/ModernKyoto/>)や日本版MapWarper(<https://mapwarper.h-gis.jp/>)において、ジオリファレンスを行ってWeb公開している。
- 3) 矢野桂司・中谷友樹・磯田弦編『バーチャル京都—過去、現在、未来への旅』(ナカニシヤ出版、2007)。
- 4) 矢守一彦『都市図の歴史 日本編』(講談社、2026年)。
- 5) 山近(2007)山近博義「林吉永版京大絵図の特徴とその変化」、金田章裕編『平安京—京都都市図と都市構造』(京都大学学術出版会、2007)。
- 6) 前掲4) 矢守。
- 7) ARCでは、Web上で自由にジオリファレンスを行うことができる、日本版MapWarper(<https://mapwarper.h-gis.jp/>)を提供している。
- 8) 塚本(2012)は、ARC所蔵の京都図3点を対象にジオリファレンスを適用し、描かれた範囲や内容、歪みの状態について詳細な空間分析を行っている。塚本章宏「近世京都の刊行都市図に描かれた空間」、HGIS協議会編『歴史GISの地平: 景観・環境・地域構造の復原に向けて』(勉誠出版、2012、121-130)。